

報道各位

2023年度(第59期)決算及び経営体制一部変更のお知らせ

株式会社エフエム東京(TOKYO FM)は、本日開催の当社決算取締役会におきまして、第59期事業報告、連結計算書類、計算書類及びその附属明細書を承認すると共に、6月24日付の経営体制一部変更を内定いたしました。

6月24日付の経営体制一部変更につきましては、同日開催予定の第59回定時株主総会での決議を経て、正式に決定する予定です。

【本件に関するお問合せ】

株式会社エフエム東京 管理本部経営管理局 担当:松永、谷本

各位

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第59期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の概況をとりまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

当期は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更される中、社会の様々な場面での正常化が進みました。一方で、混迷を極めるウクライナ戦争やパレスチナ紛争、円安・資源高騰による物価上昇等々、厳しい経済環境が続きました。

このような状況下、当社の放送に関しては、引き続き、自由な言葉が行き交う音声放送の楽しさ、面白さを追求し、また、年代を超えた興味関心にこたえる企画・選曲を目指すこと等により、2023年度に実施された全6回の首都圏ラジオ合同聴取率調査の全ての回において、「男女 18～49歳」「男女 12～59歳」「男女 12～69歳」の主要区分でトップを獲得しました。

しかし、ラジオ、テレビ、新聞、雑誌のマス四媒体の売上については厳しい状況が続いており、2024年3月の民放連の発表では、2023年(暦年)のラジオ全体の放送売上は12か月のうち10か月で前年を下回り、テレビ全体の放送売上は全12か月で前年を下回りました。VR、AR、生成AIの急速な進化等、止まることがないデジタルテクノロジーの高度化の中で、当社は、2019年度より「FM放送事業者からオーディオコンテンツ事業者へ」を経営方針に掲げ、放送で培ったコンテンツ制作能力を活かして、インターネット関連売上が放送売上に並ぶ収入軸に成長させるべく取り組んでいます。なかでも、音声コンテンツプラットフォーム「AuDee（オーディー）」は、内容の充実と共にそれ自体での売上に加えて、放送売上への貢献実績を広げています。2023年度のインターネット収入は、スポンサー売上を中心に10億5千1百万円、前期比19.8%増の伸びとなり、2023年度通期で10億円を超えるという目標を達成しました。なお、インターネット収入のうち、1億2千3百万円は、有料コンテンツのユーザー課金等の売上であり、前期比30.6%増となりました。インターネットの売上増、及び、番組リスナー参加有料イベント増による企画事業収入向上等が貢献して、2023年度の当社単体売上高は、110億2千8百万円、前期比1.6%増となりました。

また、ジャパンエフエムネットワーク（JFN）全国38局のキーステーションであることによる番組編成面、営業面でのアドバンテージは不変であり、それを支える加盟各局に対しては、ネット番組の広告料配分に加えて、地方における観光、移住、物産等をめぐる需要を掘り起こして、各局の売上拡大に貢献する社内プロジェクトを組織し、2023年度を通して着実に実績を上げました。

当社は、FM番組と、動画やVR等も含めた様々なデジタルコンテンツ、リスナーイベントやステージエンタメ制作、配信ビジネス、キャラクタービジネスや関連商品開発等により、生活者の日常の中で好感度の高い「TOKYO FMブランド」の確立を目指して参ります。

皆様におかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 黒坂 修

営業の概況

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の正常化により緩やかに回復したものの、インフレの進行により実質賃金が前年比マイナス基調で推移したこと等により、個人消費は力強さを欠く傾向が続きました。

広告市場においては、進展する社会のデジタル化を背景に増加傾向が続くインターネット広告費が前年比7.8%増となり、広告市場全体の成長を後押ししました。一方で、テレビ広告費は前年比3.7%減、ラジオ広告費については前年比0.9%増の小幅な伸びに留まりました。

このような状況下、当社グループにおいては、主力の放送事業において、タイム放送収入やスポット放送収入が伸び悩んだものの、経営方針の中心に掲げるデジタルビジネス拡大施策が奏功し、インターネット収入が前期比19.8%増となったことから、放送事業収入全体では増収となりました。また、企画・制作事業収入は、行動制限の緩和と社会活動の正常化により、イベント・興行が復活したことで、前期に比べて大幅な増収となりました。連結子会社ジグノシステムジャパン(株)が運営するインフォメーションプロバイダー事業収入は、依然としてデジタルコンテンツビジネス市場の構造変化への対策に課題があるものの、当期は通信キャリアのポイントプレゼントキャンペーンによる収入があり、増収となりました。

以上の結果、当社グループ全体の連結売上高は143億3千3百万円（前期比2.9%増）、営業利益は8億8千3百万円（前期比13.1%増）、経常利益は11億6千7百万円（前期比13.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は15億3千万円（前期比106.5%増）となりました。

当社単体業績については、売上高が110億2千8百万円（前期比1.6%増）、営業利益は5億6千7百万円（前期比6.7%増）、子会社からの配当減少により経常利益は7億8千4百万円（前期比1.7%減）となりました。当期純利益は、過去のi-dio事業にかかる多額の費用を税務上の損金に計上した結果、法人税等が大きく減少することとなり、9億3千6百万円（前期比5.4%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下のとおりです。

<放送事業活動>

当社は、開局50周年を迎えた2020年4月より、放送活動におけるブランドプロミス（編成指針）“Life Time Audio 80.0”を掲げ、「TOKYO FMは、伝わる言葉と心に響く音楽で、生活者の人生に寄り添い、生活者とともに心豊かな物語を紡いでいく存在でありたいと思います。」との理念のもと番組編成に取り組んでおります。その結果、この4年間は首都圏ラジオ合同聴取率調査において各年代にわたり継続的に高い聴取率を獲得しており、そのため、2023年度においては、大きな番組改編は行わず、各々の番組内容の強化、そして番組宣伝に注力しました。

当期において特に注力したのは、番組イベントの開催です。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い行動制限が緩和されたため、また、高聴取率による集客力の強化を踏まえて、リスナーとのリアルなコミュニケーションの場としての番組イベントの開催に積極的に取り組み、特に8月には、以下3つの大型番組イベントを実施しました。

『SCHOOL OF LOCK!』では、ソニーミュージックと合同で10代限定のアーティストオーディションイベント『マイナビ 閃光ライオット2023 produced by SCHOOL OF LOCK!』を実施しました。

『山崎怜奈の誰かに話したかったこと。』では、パーソナリティの山崎怜奈によるトークイベント『ダレハナ夏祭り!』を開催しました。会場チケットは完売し、有料ライブ配信も実施。イベントグッズの売れ行きもよく、番組とリスナーの結びつきの強さを示すことができました。

『Skyrocket Company』では、『スカロケ大盆踊り大会 in 大師夏まつり2023』を足立区の西新井大師の盆踊り大会と共同で開催。番組リスナーおよそ3,000人が集まり、大きな盛り上がりを見せました。

そして10月22日には、番組パーソナリティと当社社員・制作スタッフからリスナーへの感謝の気持ちを伝えるイベント『TOKYO FM リスナー感謝祭 in 渋谷音楽祭 2023』を渋谷の複数会場を舞台に開催しました。メイン会場のLINE CUBE SHIBUYAでは、人気番組『NISSAN あ、安部礼司〜BEYOND THE AVERAGE〜』や、平日レギュラーワイド番組のパーソナリティ陣による特別番組『53周年だヨ!ワイドパーソナリティ大集合スペシャル!』の公開生放送を実施し、また、北谷公園とTOWER RECORDS SHIBUYAでは音声コンテンツプラットフォーム「AuDee」の番組の公開収録を行いました。各会場にはたくさんのリスナーが集まり、活気と熱気と笑顔に溢れ、ラジオとリスナーの距離の近さをあらためて実感できるイベントとなりました。各会場では、当社社員が物販や会場案内、スポンサーからのお土産配布等に携わり、社員全員が運営スタッフのひとりとなって、リスナーに感謝の気持ちを伝えました。

特別番組としては、11月にJFN加盟38局が参加する“FM FESTIVAL”の特別企画として、デビュー45周年を迎えた国民的バンド、サザンオールスターズの桑田佳祐氏を出演者に迎え、『FM FESTIVAL 2023 サザンオールスターズ デビュー45周年!「サザンとわたし」スペシャル』を放送しました。進行の住吉美紀氏による桑田佳祐氏のロングインタビューが実現し、曲作りの裏側等の貴重なエピソードが語られました。

これらの取り組みの結果、当期に実施された全6回の聴取率調査（隔月実施）では、当社のコアターゲットである「男女 18～49歳」区分、「男女 12～59歳」区分、最も幅広い世代をターゲットとした「男女 12～69歳」区分において、いずれもトップを獲得しました。

当社は、「FM放送事業者からオーディオコンテンツ事業者へ」を経営方針に掲げており、デジタルビジネスの収益拡大を目指しています。その中核として2020年度に立ち上げた音声コンテンツプラットフォーム「AuDee」において、当期はユーザー課金事業に高い経験値を持つ外部企業との連携で、サブスクリプション課金サービス『番組メンバーシップ』を開始しました。これにより、音声コンテンツ配信だけでなく動画のリアルタイム配信やコンテンツ毎の課金プランの設定等、よりユーザーメリットのあるサービス設計が可能になりました。また、「AuDee」コンテンツを他のプラットフォームに配信しリーチを拡大する「マルチプラットフォーム戦略」も積極的に推進しました。デジタルビジネスのBtoB事業では戦略テーマに「コンテンツDX」を掲げ、動画やSNS等の多くのコンテンツプラットフォームと連携し、当社が保有する放送コンテンツを活用した新たな商品開発を行いました。このような取り組みを多くのスポンサー企業に評価

して頂いた結果、インターネット収入におけるBtoB事業の売上高は前期比18.5%増、BtoC事業を合わせたインターネット収入全体では前期比19.8%増となり、目標としていた売上10億円を超えることができました。

なお、2020年3月末に一般放送を終了したi-dio (V-Lowマルチメディア放送) 事業については、当期末に全ての事業整理を完了しました。

<企画・制作事業活動>

当期のエンタテインメント業界は、コロナ禍で失われた時間を取り戻すかのように、各種イベントが活況を呈し始めました。

当社においても、13年ぶりとなる日本武道館での自主興行『TOKYO FM LIVE INCLUSION 2023』、鈴木おさむ氏の放送作家キャリア最後の舞台作品『芸人交換日記』、初代機長である城達也氏の美声をAI技術により蘇らせた『JET STREAM LIVE 2024』等を実施し、いずれも好調に推移しました。

また当期は多くの作品に出資参画もしました。7年ぶりとなったボブ・ディラン氏の来日公演に始まり、2.5次元ミュージカル『NARUTO-ナルト-』、ディズニー音楽の巨匠アラン・メンケン氏の来日コンサート『ディズニー・ブロードウェイ・ヒッツfeat.アラン・メンケン』、ミュージカル音楽の巨匠アンドリュー・ロイド・ウェバー氏が手掛け、当社の番組にも影響を与えた映画のミュージカル版『スクールオブロック』、スタジオジブリ作品の魅力を紹介する『金曜ロードショーとジブリ展』、スティーブン・スピルバーグ監督による映画版の大ヒットを受けて誕生したミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』の新プロダクション、最新の技術を駆使した『DinoScience 恐竜科学博2023@TOKYO MIDTOWN』等、積極的な事業展開を行いました。

この他には、放送や「AuDee」の番組に連動したイベントも数多く実施しました。なかでも前述のように、当社初の試みとなった『TOKYO FM リスナー感謝祭 in 渋谷音楽祭 2023』には多くのリスナーが来場し大盛況のうちに終了しました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主力のモバイル事業において、通信キャリアのポイントプレゼントキャンペーンによる収入により、下期より増収基調に転じました。この勢いを背景に、通信キャリア各社の戦略変更や市場ニーズの変化に備えた事業構造改革に取り組み、当期は、ゲーム制作会社との協業や漫画コンテンツ展開の強化、スポーツ DX ビジネスへの参入やメタバース事業の協業先の開拓等、新たなビジネスフィールドの拡大に注力しました。

<その他の事業活動>

TOKYO FM 少年合唱団は、新国立劇場のオペラ『ラ・ボエーム』公演(7月)、イタリアの名門「ボローニャ歌劇場」の来日公演オペラ『トスカ』(11月)、帝国ホテルのクリスマスコンサート(12月)、すみだ平和祈念音楽祭(3月)等に、出演いたしました。

以上

前期比較損益計算書（連結）

2023年4月1日～2024年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	2024年3月期 (2023.4.1～ 2024.3.31)	2023年3月期 (2022.4.1～ 2023.3.31)	前期比
売上高	14,333,243	13,929,626	102.9%
売上原価	8,681,919	8,563,453	101.4%
売上総利益	5,651,324	5,366,172	105.3%
販売費及び一般管理費	4,767,612	4,584,849	104.0%
営業利益	883,712	781,323	113.1%
（売上高営業利益率）	6.2%	5.6%	
営業外収益	302,879	269,295	112.5%
営業外費用	18,912	18,190	104.0%
経常利益	1,167,680	1,032,428	113.1%
（売上高経常利益率）	8.1%	7.4%	
特別利益	347,498	110,700	313.9%
特別損失	—	68,432	—
税金等調整前当期純利益	1,515,178	1,074,696	141.0%
法人税、住民税及び事業税	55,144	294,231	18.7%
法人税等調整額	△ 93,056	37,626	—
当期純利益	1,553,090	742,838	209.1%
非支配株主に帰属する 当期純利益	22,789	1,793	1270.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,530,301	741,044	206.5%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

2023年4月1日～2024年3月31日

(単位:千円)

勘定科目	2024年3月期 (2023.4.1～2024.3.31)	2023年3月期 (2022.4.1～2023.3.31)	前期比
売上高	11,028,866	10,855,384	101.6%
売上原価	6,917,317	6,819,315	101.4%
売上総利益	4,111,548	4,036,068	101.9%
販売費及び一般管理費	3,544,131	3,504,325	101.1%
営業利益	567,417	531,743	106.7%
(売上高営業利益率)	5.1%	4.9%	
営業外収益	230,633	280,420	82.2%
営業外費用	13,139	14,015	93.8%
経常利益	784,911	798,148	98.3%
(売上高経常利益率)	7.1%	7.4%	
特別利益	65,187	350,138	18.6%
税引前当期純利益	850,099	1,148,287	74.0%
法人税、住民税及び事業税	3,714	227,864	1.6%
法人税等調整額	△ 89,800	32,007	—
当期純利益	936,185	888,414	105.4%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

2023年4月1日～2024年3月31日

(単位:千円)

	2024年3月期 (2023.4.1～2024.3.31)	2023年3月期 (2022.4.1～2023.3.31)	前期比
売上高	11,028,866	10,855,384	101.6%
放送事業収入	10,527,264	10,463,947	100.6%
放送収入	6,619,381	6,687,221	99.0%
タイム放送料	4,298,757	4,441,201	96.8%
スポット放送料	2,320,624	2,246,019	103.3%
制作収入	2,352,260	2,408,293	97.7%
その他	1,555,621	1,368,433	113.7%
企画事業収入	440,374	331,477	132.9%
その他事業収入	61,227	59,959	102.1%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

2024年5月30日
株式会社エフエム東京

各位

経営体制一部変更のお知らせ

株式会社エフエム東京(本社:千代田区麴町 代表取締役社長:黒坂修)は、2024年5月30日開催の取締役会において、経営体制及び取締役会の監視機能の強化を目的として、取締役を1名増員する決定をいたしましたので、お知らせいたします。

1. 新任取締役候補者

氏名	役職名	担当部門・所属法人等
齋藤 知久 (新任)	社外取締役	日本BS放送(株)代表取締役会長

2. 2024年6月24日以降の取締役の体制

2024年6月24日開催の定時株主総会にて正式に選任された場合の取締役の体制は以下のとおりとなります。

氏名	役職名	担当部門・所属法人等
唐島 夏生 (任期中)	代表取締役会長	経営全般 管理本部長、内部監査部担当
黒坂 修 (任期中)	代表取締役社長	経営全般 コンテンツビジネス本部長
小川 聡 (任期中)	取締役	管理本部副本部長、管理本部 総務人事局長 その他特命担当事項
村上 正光 (任期中)	取締役	(株)ミュージックバード代表取締役社長
内藤 博志 (任期中)	取締役	コンテンツビジネス本部 編成制作局長
川島 修 (任期中)	取締役	管理本部 技術局長
前田 伸 (任期中)	社外取締役	(株)TOKYO TOWER 代表取締役社長執行役員
北島 元治 (任期中)	社外取締役	大日本印刷(株)専務執行役員
高見 和徳 (任期中)	社外取締役	パナソニック(株)客員
山田 清志 (任期中)	社外取締役	学校法人東海大学 理事

杉山 恒太郎 (任期中)	社外取締役	(株)ライトパブリシティ代表取締役社長
齋藤 知久 (新任)	社外取締役	日本 BS 放送(株)代表取締役会長

※ 社外取締役は、就任順で記載しております。

以 上